

とびしょうぎの歴史

とびしょうぎはどこから来たの？

2017年10月、第2回新将棋まつりに
出店していたウクレレというゲームを
はじめて体験しました。
とても面白かったのでそのゲームを
作っている人に聞いてみました。
そのゲームの発想はどこから来たのかと。

その答えが、「とびしょうぎ」というゲーム
から来たのだと教えてくれました。
「とびしょうぎってなんだろう？、調べてみたい。」
と不思議に思ったことがきっかけでした。

とりあえずネットで調べてみました。
「とびしょうぎ」とは、将棋駒を使った
駒を敵陣めがけてぴょんぴょん飛んでいくゲーム
だということがわかりました。

私も小さいころ遊んだことがありました。

「とびしょうぎって日本の伝統の遊びなのかなあ？
どこから来たの？」
とまたまた疑問が湧いてきました。
そこから私の好奇心がはじまりました。

何をどうやって調べたの？

ネットでとびしょうぎのルールを調べました。

ほとんど情報がなかったので、愛知県立図書館の司書さんに聞いてみました。

すると「日本のこどものあそび大図鑑」

という1冊の本が浮上りました。

その本には少ししか記述はありませんでしたが、参考文献を記述してありました。

その参考文献を調べて行って

また手がかりを見つけ

ということを繰り返しました。

中国にもあった蹙融（しゆくゆう）とは？

「日本遊戯史」という本に

古代支那（現在の中国）

には蹙融（しゆくゆう）

というとびしょうぎ

に似た碁石を使う

ゲームが存在した

という記述を

見つけました。

中国の書物である「梅園日記」より、

白黒5個の石を互いに一直線に並べて、

1歩ずつ進み敵味方の駒を

ジャンプして進むゲーム

だとわかりました。

梅園日記は、江戸時代後期の書物で、

とびしょうぎは「江戸の子供遊び辞典」

に載っていたので、

少なくとも江戸時代には、

古代支那と日本に広く伝わった

ことが想像できました。

飛び将棋（とびしょうぎ）

将棋遊びの一つ。古くは「によいによい」「によんによ」ともいった。駒を3個ずつ3段に並べ（計9個）、縦にだけ1画ずつ動かせる。相手の駒とぶつかると、それを跳び越えて進むことができる。先に持ち駒が全部、相手の陣地に入ったほうが勝ち。①将棋

【文献】日本全国児童遊戯法（上）、日本の遊戯、日本の遊戯の解説、日本遊戯史、遊びの大事典

日本こどものあそび大図鑑 P158

六 飛び将棋 この将棋は中古時代には飛将棋と呼ばず、によんによといはれ、飛び将棋と呼稱さるるに至つたのは遙か後代の事であつた。

『箋絨編』に、

わこの抱守袴きた馬蹴合ふ時

首でによんによを碁いく難

とある。この飛将棋は我國では將棋盤に駒を並べて行ふ事になつてゐるが、これに類似した蹙融といふ古代支那に行はれた遊戯は碁石を以て行ふことになつてゐた。

『西陽雜俎』に、

小戲中於奕局一坪各布五子、角遲速一名蹙融予因讀坐右之方謂之蹙戎。

とあるを『資暇錄』に釋註して、

蹙融今有奕局、取三道、人行五碁、謂之蹙融、融宜作戎、此戲生黃帝威鞠、意任軍我也。殊非因融之義、瘦元規、著坐右方所蹙戎者、今之蹙融也。學者固已知之。

とあるによれば、支那にも我國の飛将棋に類似した遊戯が存在してゐたのであつた。

日本遊戯史

P515

調べて分かったこと

調べる前

日本の伝統ゲームだと思っていた。

調べた後

古代エジプトを発祥として、
2つの流通経路が浮上してきた。

陸のシルクロード説

①インド～中国～朝鮮～日本

海のシルクロード説

②インド～東南アジア～日本

そして日本に伝わったと考えられる。

私は伝わった国々での形状を見ると、
遣唐使の頃に陸のシルクロードを
渡って伝来したと推測します。
蹙融（しゆくゆう）が将棋用具でも
できるようにとびしよぎになって、
江戸時代の頃には庶民に大流行したと考える
現代ではぴよんぴよんしよぎも発売されている。

そこから明治時代にはドラフツが伝来して
哲学飛将碁を井上円了氏が開発、
その後、タコツボ、ウクレレ
というゲームも開発されて
現在に至ったと推測する。

まとめ

世界各地に見られる飛び越しゲームが、
どうやって広がっていったのかを調べました。
私は伝わった国々での形状を見ると、
遣唐使の頃に陸のシルクロードを渡って伝来し、
その後、海のシルクロードを渡って伝来してきたものと合流したと推測します。

とびしよぎのゲームを前3方向に進めるように変更した「さくらしよぎ」を開発しました。
子供から高齢者まで広く親しまれて、おかげさまで好評を博しています。

参考文献

愛知県立図書館 日本遊戯史 建設社 p515

愛知県立図書館 日本児童遊戯集 平凡社 p74

愛知県立図書館 盤上遊戯 法政大学出版社 p130

愛知県立図書館 日本こどものあそび大図鑑 遊子館 p158

愛知県立図書館 江戸の子供遊び辞典 八坂書房 p152

愛知県立図書館 角川古語大辞典 第4巻 角川書店 p692

愛知県立図書館 世界遊戯法大全 本邦書籍 p221

愛知県立図書館 将棋庶民史 朝日新聞社 p245

インターネット 哲学飛将碁（てつがくとびしょうご）

<https://ja.wikipedia.org/wiki/哲学飛将碁>

インターネット 日本チェッカー・ドラフツ協会

<https://sites.google.com/site/japancheckersdraughts/home>